



# 町民文芸

## 只見短歌会 令和八年三月詠草

目黒 富子  
ビー玉におはじき見れば目が閨む遊びし孫等我が背丈越す

関谷登美子  
豪雪に春めき日なり雪まつり祈願花火や夜空色どり

立花 奏音  
雪解けの流れ追ひかけ息子ゆく春のひかりを手にすくうごと

新国由紀子  
初アイス冷たきに驚く一歳の孫は慌ててエアコン付けぬ

渡部ヨリ子  
亡き母に似てきし我をいぶし銀といふ人あるも母越すは難し

## 只見俳句会 三月定例会

睦子  
人生に我生き残る冬の虹  
聖火消え心さみしくおくる日々

尚 幸  
ふきのとういつもの道で虫探し  
瀬切れの場うちあつまつて柳鮓やなぎはえ

礼  
天井にみずかぎろいや客を待つ  
鉄柱の雪間広がる路傍ろぼうかな

修 一  
愛でる声河津桜の八分咲き  
まだ硬くあちこち向くや露の臺

信  
松山や子規のふるさと春霞  
只見川雪解け水の音高し

都  
袖丈は少し短かし入学子  
大試験すがまずは神仏すが縫りおり

味代子  
残雪やくり返し読む棚の本  
輝いてたった一輪福寿草

一 恵  
春野菜色良くゆだりてハミング  
吹き上がる香り一気にフキノトウ

真理子  
雪解けや桜哀れに折れし枝  
春眠や化粧の手を止め目をとじる

